

第3回放課後子どもひろばにかいどう外3施設指定管理者選定委員会 議事概要

1 日時

令和4年(2022年)7月21日(木)9時00分から14時00分まで

2 場所

鎌倉商工会議所 301会議室

3 出席委員

加藤委員長・松原副委員長・石見委員・大西委員・品川委員

4 事務局出席者

小林(青少年課長)・田中(青少年課青少年担当係長)・川村(青少年課青少年担当職員)・渡邊(青少年課青少年担当職員)・高橋(青少年課青少年担当職員)

5 審議等内容

(1) はじめに

公開ヒアリングに先立ち、応募団体名の紹介、公開ヒアリングの流れ及びその内容の確認を行った。

プレゼンテーションのテーマは、【自発的に児童が参加したいと思う居場所としての放課後かまくらっ子の形成に指定管理者として取り組むこと。】とした。

選定に係る判断基準の1つとして、アンケート調査の結果の中で、どうしてかまくらっ子に行っているかという質問に対し、「親が行ってこいと言ったから」、保護者側の意識としてどうして預けているかという質問に対して、「必要だから」という回答が多いことが課題としてあげられた。そのため、第1回選定委員会にて協議し、プレゼンテーションのキーワードを「自主的」とし、児童が自発的に参加したいと思う居場所を実現するために、指定管理者として、どのような取り組みを行っていくかに重視して選定を行うこととした。

(2) 公開ヒアリング(プレゼンテーション及び質疑)

応募団体が、放課後子どもひろばにかいどう外3施設に関する内容について、テーマに沿ったプレゼンテーションを行い、その後、選定委員から応募団体に対して質疑を行った。

主な質疑内容については、別紙質疑応答表のとおり。

(3) 採点及び審議

各団体の採点結果は、採点表のとおり。

なお、すべての団体が最低基準を満たしていたため、選定委員5人の採点を総計し、その合計点で最高点を獲得した株式会社明日葉が優先交渉権者として選定された。

(4) 講評

委員長：鎌倉市が作成したアンケートを丁寧に分析し、どこに問題があり、どのように解決すべきか分析した団体は初めてだった。その中で、高学年になると子どもが来なくなってしまうという問題を分析し、高学年の居場所を作るという提案につながったのが素晴らしかった。今後、鎌倉市内で運営する中で、それぞれの場所で起こっている事実と向き合ってその中から問題点を見つけ出し、解決していく姿勢を持っているのでこれからのかまくらっ子にとってとても大事な団体になると感じた。

副委員長：提案書に子どもの意見を反映する取り組みについてとても丁寧に記載されているところが素晴らしいと感じた。「楽しい」というキーワードもそうだが、放課後かまくらっ子は子どもの意見から始まるものだと思うので、それについて一番答えてくれていた団体だった。

石見委員：保護者へのお便りを各社からいただいた際、ふりがながふってある配慮やカレンダー状の予定表などお便りについて、私の子どもから評価がかなり高かった。お便りをもらってずっとランドセルにいれっぱなしではなく、このお便りだったら自分で冷蔵庫に貼ると子どもが話しており、子ども自身がそう感じるということはとても大切だと思った。

大西委員：株式会社明日葉の鎌倉出身の職員が生まれ育った地域に貢献したいという想いがとても強いことを感じた。放課後かまくらっ子についても、よく調べられており、この時代の中で、子ども達が自分で考えて自分で行動して生きていける子どもになっていくようにという想いの中に優しさも感じられる点が良かったと思う。

品川委員：今回のテーマである、「自発的に児童が参加したいと思う居場所としての放課後かまくらっ子の指定管理者として取り組むこと」に一番真正面から向き合っていたと感じた。感染症対策1つとっても、子ども達へのいろいろなアプローチを持っているところも素晴らしいと感じた。いろんな子どもがいることも理解し、多様なアプローチの仕方を持っているところが魅力的だと思った。